



R.I. 第 2630 地区 **高山中央ロータリークラブ**
WEEKLY REPORT

2008 ~ 2009 年度 高山中央 RC 会長テーマ 「ひとつの心で」

会長 三枝 祥一 幹事 足立 常孝 会報委員長 津田 久嗣

創立 1991 年 5 月 20 日

事務局 高山市花岡町 1-15 丸越商事 4F

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

例会日 毎週月曜日 PM12:30 ~

ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 772 回	47 名	41 名	32 名	-	78.05%
前々回 770 回	47 名	42 名	36 名	2 名	90.48%

<点 鐘> 高山 RC 会長 野畑 国久

<ソング> 奉仕の理想

<ピジター & ゲスト紹介>

国際ロータリー第 2630 地区

ガバナー 由良 久 様

国際ロータリー第 2630 地区

地区幹事 小川 真奈 様

国際ロータリー第 2630 地区

岐阜県濃飛分区ガバナー補佐

長瀬 隆 様

<会長の時間>

高山 RC 会長 野畑 国久 会長

本日、ガバナー由良 久様を始め、地区の役員の皆様方をお迎えし、高山 3 RC 合同のガバナー公式訪問例会を開催することが出来、大変光栄に存じます。色々のご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

今年度は高山 RC がホストでありますので、少し会長の時間を頂いて、商売柄、茶道についてお話をさせていただきます。



茶道とは、広辞苑で調べますと、茶の湯によって精神を修養し、これを他人と行って交際礼法を究める道と書いてあります。(つまり、お招きしたお客様をお食事とお茶で

もてなすということではないでしょうか。) 茶道は、450 年ほど前に千利休によって深められ、孫の宗旦によって完成されました。宗旦の子供が三家(三千家)に分かれて、今日に至っています。

三千家とは、表千家、裏千家、武者小路千家です。中でも裏千家の 15 代鵬雲斎(現在は 16 代)千宗室お家元は、京都 RC の会員であられ、元 RI 理事、2004 年大阪で開かれた RI 国際大会の大会委員長を務められました。

三千家以後、様々な流派が生まれました。ここ高山では宗和流が受け継がれています。私も宗和流を学ぶ一人であり、3 RC の中にも 6 名の方が学んでみえます。

天正 12 年 明暦 2 年

宗和流の始祖は金森宗和(1584 ~ 1656)であります。宗和は、飛騨国藩主金森 2 代可重の長男として生まれ、名は重近でありました。慶長 19 年(1614)に勘当され、母と共に京都へ移り住んで大徳寺で禅を学び、元和元年(1615)剃髪して宗和と号しました。宗和は、祖父初代長近が千利休の門下であり、又、父可重は利休の長男道安に習い、当時の武家茶人として有名であった事から、茶道に精通していました。

京都における宗和の茶風は、明るく軽やかで優美な好みから、皇族、公家に大変受け入れられ、姫宗和とも言われています。

宗和流茶道は、昭和 39 年 2 月 26 日に高山市の無形文化財に指定されました。皆様方も関心のある方は是非入門して下さい。

現在は、日々を忙しく過ごし、人が人を大切にする時代ではなくなってしまいました。こうした現代こそ「茶道」を通じて人を心からもてなす余裕と、自らを見つめるひとときを持つことが大切ではないでしょうか。私自身も精進努力致したいと思います。皆様方も「茶道」に目を向けて頂くことをお願いし、会長の時間とさせていただきます。ありがとうございました。

< 歓迎の挨拶 >

高山西 R C 阪下 六代 会長

国際ロータリー第 2630 地区ガバナー由良久様、同地区幹事小川真奈様及び岐阜県濃飛分区ガバナー補佐長瀬隆様、錦繡の秋を迎えたこの高山の地によこそお越しくございました。心より歓迎申し上げます。

さて、由良ガバナーにおかれましては、平素、高山の 3 ロータリークラブに対し暖かいご指導を賜りまことにありがとうございます。

私たち 3 クラブは、ガバナーの提唱された「私たちが地域の地球環境改善活動の火種となろう！」というスローガンを中核とする地区活動目標に則り、今年度の事業活動を開始したところでありますが、その間、長瀬ガバナー補佐の助言、指導をいただき、ここまで大過なく展開しております。

しかし、まだまだこれで十分とは考えているわけではな



く、今後も引き続き 3 クラブがそれぞれの個性を發揮しつつ切磋琢磨をし、悔いを残さないようこの年度を送りたいと念願しているところであります。

幸い 3 クラブの会長は昭和 23、24、25 年に生まれ、同時期に同じ高等学校に在籍していたという関係もあって相互の連携、協力関係は極めて円滑に進んでいるところであります。

現在、米国発の金融不安に伴う信用収縮と实体经济の不振により、我が国はもとより欧米、アジア各国など全世界が未曾有の大恐慌の瀬戸際に立たされ、我々ロータリーを取巻く環境もさらに厳しいものになるうとしております。来る 11 月 15、16 日には、地区年次大会も控えておりますので、本日は勿論のこと、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

由良ガバナーのご健勝と第 2630 地区の益々の発展を祈念して、意は尽くしませんが、歓迎の挨拶とさせていただきます。

< ガバナー卓話 >

国際ロータリー第 2630 地区
2008-09 年度ガバナー

由良久 様

本日は、R I テーマ「夢をかたちに」会長強調事項「水・識字率・飢餓救済、保健衛生」について先ずお話し、R I 会長が、日本のクラブに特に要望しておられる会員増強・維持・拡大についてお話しさせていただきます。

R I テーマ、会長強調事項

R I 会長が、「夢をかたちに」と言っておられるのは、5 歳未満の子供が、1 日 2 万 6 0 0 0 人、本来なら避けられる原因で亡くなっている、このすさまじい死亡率を削減して、その子供たちの本来の寿命を全うさせて充実した人生を送れるようにしようではないかということ、を、「夢をかたちに」という短い言葉に表しておられるのです。



1 日 2 万 6、0 0 0 人という死亡率は、高山市、飛騨市の総人口 12 万人を 5 日たらずで消し去るというすさまじい率でございます。

この死亡率を削減するには、医学等の飛躍的な進歩がなければ解決できない問題ではないのです。貧しい未開発国や地方に井戸を掘ってやったり、ごく安価な薬や、防虫剤処理した蚊帳を子供たちのケアをしている人に届けてやること。病院や、病院の器具施設の援助、農業指導、灌漑施設建設、女性の教育機会均等化のための学校建設その他の教育援助等、ここ数年間の R I 会長の強調事項に従ってやってきたことを、130 万人のロータリアンが、こぞって、5 歳未満の子供の死亡率削減のために集中してやれば救助を飛躍的に前進させることができるというのが R I 会長のお考えであります。

この問題は世界がこれまで放置してきた問題ではありませんが、最近になって、救済に携わる人々のパートナーシップを拡大し、組織化して救済を速めなければ、国際的に申し合わせた目標を達成できないということがわかってきました。

1960 年には、5 歳未満の子供の死亡は、1 日に 5 万 5 0 0 0 人（年間 2 0 0 0 万人）でした。1990 年には 1 日 4 万 2 0 0 0 人（年間 1 5 0 0 万人）、2006 年には 1 日 2 万 6 0 0 0 人（年間 9 6 0 万人）というように、

1960年を基準にすれば6割がた死亡率を削減し記録を取り始めてから初めて年間死亡数が1000万人を切ったわけでありませぬ。

各国政府や国連機関、保健医療の専門家、これに資金面、人材面等で協力した民間団体のおかげです。勿論、その中にはR I会長の強調事項に従って奉仕したロータリアンも入っています。

このように5歳未満のこどもの死亡数が削減されてきたことは喜ばしいことではありますが、1日2万6000人(年間死亡数970万人)は、我々がもっと多く救助に参加し救助を早めておれば助けることができた命の数です。それ故我々は救助活動を増やし、速めなければならないのです。世界最大の奉仕団体のロータリアンの更なる参加が求められているのです。私たちは、目の前で子供がおぼれておれば、たとえ他人の子でも懸命に助けようとするでしょう。見て見ぬふりをするのはロータリアンとして恥ずべきことです。

5歳未満児の死亡率というのは、生きて生まれてくる子供1000人に対して何人が5歳までに亡くなるかで表します。

国際社会には、ミレニアム開発目標4というゴールを設けて、1990年から2005年までに5歳未満のこどもの死亡率を3分の2削減しようという申し合わせがあります。

例えば、R財団管理委員長マジアベさんのナイジェリアでは、1990年には、1000人中230人が5歳までに亡くなっていますが、2006年までに190人までに削減しております。然し2015年までには、76人までに削減しなければなりません。これは他からの応援がなければ絶対実現できないでしょう。

カンボジアでは、1990年には116/1000、2006年では82/1000まで削減していますが2015年までには38/1000まで削減しなければなりませんかなりの努力が必要です。応援を必要とするでしょう。

日本は、1990年に6/1000でした。2006年では4/1000でした。2015年には2/1000にしなければなりません。おそらく実現するでしょう。然し、私たちは、その数を限りなく0にまで近づけるべきでしょう。

アフリカであれアジアであれ、日本国内であれどこにも奉仕のニーズがあります。クラブの力と実情に応じて自分のところで出来る奉仕を検討し選択し会長賞に挑戦しましょう。私たちは、もう随分と長い人生を生きてきました。私たちは、この世を卒業してあの世に行く前に私たちがすべきことは、私たちが生まれてくる前より、この世を少しでもいい世の中にしていくことです。1日に2万6000人も子どもが死ぬような社会を残していくことは恥ずべきことです。

会員増強、維持、拡大

私たちが、R Iテーマを進めていくためにはロータリークラブの奉仕力が必要です。このテーマは将来も継続して達成していくべき課題です。とても1年では達成できませ

ぬ。そのためには、われわれの奉仕力が必要です。毎年会員数が減少していくようでは子供たちより我々が先になくなるかもしれません。増強 維持 拡大が絶対必要です。

皆様各クラブで、増強チームをこしらえ、期間を区切って数値目標を設定して、新会員候補者のいそうな企業や、専門職務の事業所を訪問して話し合ってください、この場合目標は高めにしてください。ハードルが高くなければ挑戦者は奮い立たないでしょう。ロータリアンの適格者の中にはひょっとして、実は一度も誘われぬから会員にならなかったという人がいるかもしれません、こういう人達を掘り起こしてください。いろいろの理由で断る人がいるかもしれません。そういう人がきっと多いのです。

実はR I理事の中にも4回も断った末5回目にやっと承知して会員になった人がいるのです。三顧の礼を尽くして勧誘しなければならないのです。

皆様は、顧客さんや新入社員を勧誘したり、募集したりする天才です。

だから成功してロータリアンになっておられるのです。どうかその才能をロータリーに生かしてください。

又、一カ月に一回はゲストデーを設けて、目を付けた人を招いて、会員と名刺交換をしたうえで、ロータリーはどういったことをしているのかを知ってもらうようにしては如何でしょうか。そして次には卓話をお願いしたりして会員に取り込んでいってはいかがでしょうか。

又、会員がお互いに知り合いをリストに書いて出し合い、増強チームで適格者を選びアタックするという方法もあるようです。

又、女性企業家にも目を向けましょう。ロータリークラブは、その地域の職業構成を反映した、地域全体の小宇宙でなければなりません。われわれは会員の年齢、性別、職業について多様性を失うと活力を喪失します。未充填の職業分類を埋めていくことが増強であります。

次に私たちは、顧客を新たに獲得するよりその顧客を大事に囲い込んでいくことがより容易かもしれません。皆様のお得意領域です。

それが会員維持の問題です。なぜか3年内に退会していく会員が多いんです。皆様のご商売なら大変なことです。その場合皆さまならきっと原因を考え対策を講じられるでしょう。

まず新入会員をクラブに早く溶け込ませましょう。まず、入会前に紹介者がロータリーのことをよく伝え、その上で例会場のホテル等に夫婦をよんで会長幹事さん等と顔合わせし、和やかな雰囲気でもロータリーの会費その他経費、出席義務、権利等を説明したうえでロータリーの楽しさを語りながら楽しく歓談する機会を持ちましょう。配偶者にお気に入ってもらおうのが第一です。それから入会後は厳粛に入会式を行い、(文献を渡し、バッジをつける)入会後もR情報委員会等でのインフォメーションで更にロータリーの歴史、きまり、習慣等を伝えましょう。

それから新会員には早い機会にやりがいのある、責任をとる仕事をあてがい帰属意識を高めましょう。

例会での席もできるだけ会員全部と顔が合い名刺交換できるように配慮しましょう。

大事なお得意さんが離れていかないように配慮しまし

よう。古い会員の席が知らぬ間に決まっていた割り込みのないようなテーブルは最悪です。

東京倶楽部では、毎回コンピュータで席の位置が決まれば、メーカーに行くと思いがけない名士と隣り合わせになることもあるようです。

皆さん忙しい時間を割いて出席しておられるのですから、例会の内容を充実させるようにしましょう。

会員の受けをとるような会長挨拶も例会を楽しくするものですが、必ずロータリーと結びつくようにしましょう。

次に拡大の問題です。自分たちの地域は狭いので、拡大なんてと考えておられませんか。

従来の例会時間では、勤務形態等から、出席でいないという層の人たちを対象に、夜や、朝の例会をもてるクラブ等を設けたらどうでしょうか。

趣味を共通にする人たちで、たとえば、ゴルフを趣味にする人たちだけで毎週決まった日にコンペをすることにして、プレイ前の1時間、クラブハウスで例会を持つということにしてはどうでしょうか。

ITに詳しい人ばかり集まって、ITを駆使して、事務局を持たずに、経費を節減し安い会費でクラブを運営しているクラブもあります。

いろいろな人たちのニーズに応えた新クラブを創設するのも拡大の一方法です。

最後に現在当地区は名古屋の地区と一緒にR財団学友のクラブの設立の準備を展開中であります。このことを皆様にご紹介して今日の卓話を終わらせていただきます。



<ニコニコBOX>

本日は公式訪問にやっ来てまいりました。どうぞよろしくお願い致します。

ガバナー 由良 久 様
地区幹事 小川 真奈 様

本日、ガバナー訪問でお世話になります。貴クラブの発展を祈念いたします。 **ガバナー補佐 長瀬 隆 様**

<謝 辞> 高山中央RC 三枝 祥一 会長



ここで3クラブを代表いたしまして一言お礼の言葉を述べさせていただきます。

本日は第2630地区ガバナー 由良 久様はじめ、地区幹事 小川 真奈様、岐阜県濃飛分区ガバナー補佐 長瀬 隆様には、昨夜の歓迎の宴、そして本日の公式訪問と2日間にわたり色々な面で我々にご指導頂き誠にありがとうございました。

7月のご就任以来3ヵ月半が経過し、あと2クラブ残して公式訪問終わられるとの事でしたが、来年6月末の任期満了までまだまだ長うございます。ご健康には充分にご留意頂き、地区のためそして我々のためになお一層ご指導頂きます事をお願い申し上げます、甚だ簡単ではございますがお礼の挨拶とさせていただきます。

国際ロータリー第2630地区

ガバナー 由良 久 様・地区幹事 小川 真奈様・岐阜県濃飛分区ガバナー補佐 長瀬 隆 様 のご訪を歓迎いたします。この1年のご指導を宜しくお願い申し上げます

高山RC会長 野畑 国久
高山西RC会長 阪下 六代
高山中央RC会長 三枝 祥一